

# 21PO-am149S

NC/Nga マウスのアトピー性皮膚炎様皮膚病変に対するステロイド薬およびジョサマイシンの併用療法の効果について

○村中 円香<sup>1</sup>, 山口 徒佳<sup>1</sup>, 前田 真奈美<sup>1</sup>, 松井 勝彦<sup>1</sup> (<sup>1</sup>明治薬大)

【目的】我々はこれまで抗生物質のジョサマイシンがアトピー性皮膚炎(AD)の治療薬になりうることを示してきた。そこで今回は、NC/Nga マウスのAD様皮膚病変に対するステロイド薬とジョサマイシンの併用効果を調べることにした。

【方法】AD誘発試薬のピオスタADで誘導したNC/Nga マウスのAD様皮膚病変に対して0.1% (w/w)ベタメタゾンおよび0.1% (w/w)ジョサマイシン軟膏を塗布した。軟膏基材には5% (w/w)流動パラフィンを含む白色ワセリンを用いた。各薬物の治療効果は、皮膚重症度スコア、皮膚病変部の組織学的な変化、耳介リンパ節細胞数によって評価した。

【結果】ステロイド軟膏単独では十分にコントロールできない皮膚炎症に対して、ジョサマイシン軟膏での処置を併用することによってNC/Nga マウスの皮膚重症度スコアの上昇を相乗的に阻害できた。両薬剤の併用による治療効果の促進は、表皮の肥厚の程度、真皮への炎症細胞浸潤の程度、真皮におけるマスト細胞数、耳介リンパ節の細胞数ともよく相関していたが、血清IgE値とは必ずしも相関していなかった。

【考察】以上の結果は、NC/Nga マウスのAD様皮膚炎症の増悪がジョサマイシンの局所塗布の併用によって、ステロイド薬単独での治療よりも相乗的に阻害されることを示した。従って、ステロイド薬で十分にコントロールできない黄色ブドウ球菌(黄ブ菌)定着を伴うAD皮膚病変部へのステロイド薬とジョサマイシンの併用療法は、黄ブ菌に対する抗菌作用とTh1/Th2細胞分化に対する阻害作用の両者が組み合わさることで、各薬物単独での治療では得られない相乗効果を引き出すことが期待できるであろう。